

あとがき

本書の完成にあたり、多くの方々に記してお礼を申し上げたい。

まず、二年間の中国での研究の機会と本書出版の機会を与えてくれた私の所属「単位」である日本貿易振興会アジア経済研究所に対してである。四十年あまりの歴史をもつアジア研の伝統の一つは「発展途上国・現地に根ざした基礎的総合的研究の推進」という現地主義である。私の中国滞在中の現地主義のおかげである。現在、日本の社会科学の研究機関で、二年間の海外研究の機会を与えてくれるのは、たぶんアジア研だけではないだろうか。アジア研も中国共産党同様に、時代文脈の変化に伴う研究内容を含めた存在意義の再定義を迫られている。しかしこのよき伝統は一日も長く続くことを今こそ願わずにいられない。そのためにも、私自身今後も精進していかなければならないと思っている。

本書は、北京滞在中、ホームページ上に「北京からの『熱点追跡』」と題して連載してき

あとがき

本書の完成にあたり、多くの方々に記してお礼を申し上げたい。

まず、二年間の中国での研究の機会と本書出版の機会を与えてくれた私の所属「単位」である日本貿易振興会アジア経済研究所に対してである。四十年あまりの歴史をもつアジア研の伝統の一つは「発展途上国・現地に根ざした基礎的総合的研究の推進」という現地主義である。私の中国滞在中の現地主義のおかげである。現在、日本の社会科学の研究機関で、二年間の海外研究の機会を与えてくれるのは、たぶんアジア研だけではないだろうか。アジア研も中国共産党同様に、時代文脈の変化に伴う研究内容を含めた存在意義の再定義を迫られている。しかしこのよき伝統は一日も長く続くことを今こそ願わずにいられない。そのためにも、私自身今後も精進していかなければならないと思っている。

本書は、北京滞在中、ホームページ上に「北京からの『熱点追跡』」と題して連載してき

た拙稿を再構成したものである。本書のタイトルはここから取ったものである。「熱点追跡」とは、注目されている問題を追跡するという意味である。北京で私が注目したことを記録にとどめ、多くの人に早く知ってもらいたいという気持ちからスタートした連載は計六二回に上った。その主な読者であり、心温まる感想や貴重なご意見をいただいたアジア太平洋政策研究会議（CAPPS）のメンバーにもお礼申し上げる。この会議は、国内のシンクタンク、金融機関、出版社などで中国をはじめとするアジアに携わっている若手専門家の集まりで、月一回の研究会を開催し、メンバー間の切磋琢磨を目的としている。メンバーである福田恵介氏にはホームページの貴重なスペースを提供していただいた。

本書のもととなった現地での見聞は、多くの人たちからいただいたさまざまなチャンスによって得ることができたものであり、深く感謝している。まず、私と同時期到北京に滞在し、公私にわたり多くの時間を共にしたアジ研の大西康雄氏と岡本信広氏には大変お世話になった。また、国分良成、丸山伸郎、大島一二、高原明生、唐亮、宇佐美暁、荒井崇、伊藤信悟、田原史起、星野昌裕、尾高恵美の各先生には、北京にお越しの際、声をかけていただき、意見交換をさせていただいたり、また地方調査に同行させていただいた。さらに、中国の政府、企業、研究機関、大学の方々、そして中国に滞在されていた日本のマス

コミや政府関係機関の方々にはたくさんのお話をうかがった。

北京が経済的にずいぶん発展したといっても、北京大学という狭い中国人社会のなかで生活するには忍耐と寛容さが必要である。多大な忍耐と寛容さを持ち、二年間私と一緒に北京で暮らしてくれた家族にも心より感謝の言葉を述べたい。妻寿子と娘彩華が見た中国は、とかく政治や経済にはかり目がいく私にとって、実に新鮮で、興味深いものであった。そのことがホームページでの連載を続けていくインセンティブになった。

この本は、私にとって初めての単著であり、まとめる作業はなかなか大変だった。その間、温かく励まし、また一冊の本を作るためのノウハウを丁寧に教えて下さった研究編集課の岩佐佳英氏、斉藤輝夫氏に心より感謝したい。

二〇〇一年十一月